

Open Access に関するアジアでの活動について

2015年5月12日

国立情報学研究所 山地一禎

背景

- 4月に参加した COAR の会議の中で、COAR 事務局の限られたメンバーだけでは、OA 途上国へのアウトリーチが十分にできていないことが話題となった。
- これを受けて会議中にアジアからの参加者で集まって議論した。
- アジアの参加者からは、
 - 欧米の会議に出向くことは容易ではない。
 - 欧米で開催される会議の話題には十分についていけない。などのことから、自国における OA の普及・啓蒙にも障壁があると同時に、関係者間においても必要とする情報収集などが十分ではないことが指摘された。
- アジアでお互いに助け合い、OA に関する活動を盛り上げていく必要性が認識された。

目的

- 日本として COAR の活動の一翼を担うべく、アジアにおける OA 普及・啓蒙を推進するための活動に積極的に寄与する。

方法

- 具体的な方法については、何も議論していないのが現状である。
- 年に一度くらい集まって、OA 活動に関する情報共有をるところから始めるか？

メンバー（賛同者）

- 中国：Nie Hua, Deputy Director, Peking University Library
- シンガポール：Konstantinos Repanas, Agency for Science, Technology and Research
- スリランカ：Sunethra Perera, National Science Foundation

これらの国に加えて、韓国、香港、台湾、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、インド辺りに声をかけて、初期メンバーを募りたい。

確認事項

- 機関リポジトリ推進委員会の国際連携 WG の活動の一つとして位置付けるか否か？
 - 懸案事項：予算の確保と自分たちがアジアをけん引するのだという気持ちの継続。